

令和4年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて	
作文の部	
最優秀賞	・・・ P 1
優秀賞	・・・ P 2 ~ 6
図画の部	・・・ P 7



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

横手市農業委員会

当会では、多様な農業情勢に対応するため、三つの委員会を設置しています。その中の、広報・食農推進委員会では、食育教育に必要な情報提供活動や、地域における実践活動を推進しており、その一環として、教育委員会と連携し、「横手食育見聞録作文・図画コンクール」を平成十八年から継続して実施しております。

今回で十七回目となるこのコンクールは、小学生が自ら「食」について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現することが、心身の発育上、大切であるとともに、ひいては今後の農業振興に役立てるためとしております。

また、総合学習等に基づき、何らかの農業に関する学習を実践している小学校五年生を対象に「自らの農業体験」や「ふだん、農業について感じていること」を作文、

図画にしていただき、優秀作品については表彰するとともに、広報誌「横手市農業委員会だより」や横手市ウェブサイトにへの掲載、横手交流センターY2（わいわい）ぷらざにて展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で一七三点、図画の部で三〇〇点あり、十二名の審査員による審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点が決定したところです。

今回の作品も選考段階で甲乙つけがたい内容であったとともに、作品を通じて、小学生の視点から見た農業に対する思いを、ぜひともご覧いただければと思います。この作品を通じて今一度食について考え、家庭における規則正しい食生活が大切であることを考えていただく機会として、この作品集が何かのお役にたてれば幸いです。

最優秀賞

「農家さんに感謝、野菜に感謝」

吉田小学校

氏名

志賀^{しが}

陽愛^{ひな}

わたしの家のとなりには、ひいおばあちゃんの畑だった場所があります。わたしが保育園に通っていたときは、いんげんやきゅうりなど約十五種類の野菜を育てていました。そのころのわたしは、水やりとしゅうかくのお手伝いしかせずたくさんの野菜をもらっていました。

三年前、ひいおばあちゃんが高れいのため畑をやめました。わたしは、畑があるのにもつたいないと思いい母といっしょに野菜を育ててみることにしました。まず始めに草むしりをしました。足やこしのいたみにたえながら、なかなかぬけない草をいっしょけんめいぬきました。次に畑をたがやしました。くわは重くてうでとこしがいたかったです。そこに肥料をまぜて、ようやく植えることができました。植えてからも、水やり、草むしり、しちゅう立て、追肥、虫のくじよなどやらなければいけないことがたくさんありました。

とうもろこしは、虫に食べられたり、しゅうかくするのが早すぎたり、受粉がうまくいかず身がすかすかになってしまいました。オクラやきゅうりは、すぐに大きくなりすぎてしまうため毎日様子を見に行きました。スイカは、糸をはらないとカラスに食べられてしまうし、しゅうかくの時期がわかりづらかったです。いんげんは一度にとれる量が多かったので、種を何回かに分けてまけば良かったと思いました。

野菜がぐんぐん育つところを見ると、うれしくなり、かわいく思えてきました。野菜作りの楽しさを知りました。しゅうかくした野菜は、今までの感謝の気持ちをおこめてひいおばあちゃんといっしょに食べました。とてもよろこんでもらえて、うれしかったです。店に行くとかんたんに色々な野菜を買うことができるけれど、育ててくれた人がいることと、その大変さを知りました。これからは、感謝しながらおいしく食べていきたいです。



優秀賞

「食について考えたこと」

横手南小学校

氏名

あしざわ
芦澤

みはや
美颯

私の家の食事にかかせない食べ物、ひいおばあちゃんを作ってくれた野菜やみそです。母が昔ひいおばあちゃんに「ひいおばあちゃんの作った野菜やみそを食べていれば、心も体も元気になる。」と教えてもらったからです。小さいころは、よく分からなかったけれど、社会の授業を学んで分かったことが三つあります。

一つ目は、ひいおばあちゃんの野菜やみそには心がかもっていると言うことです。夏休み、ひいおばあちゃん家に遊びに行ったとき、熱中症対さくをしたひいおばあちゃんががんばって野菜作りをしている姿をみました。そして、私や私の兄弟に、「沢山食べて大きくなるんだよ。ひいおばあちゃんも沢山作るからね。」とよく話してくれました。

二つ目は、ひいおばあちゃんの野菜やみそは安心・安全なことです。ひいおばあちゃんの野菜は、農薬を

使わず、みそではてん加物を使わない安全な食べ物です。なぜ農薬やてん加物を使わない方が良いかと言うと、おいしい旬の時期に本来の味でおいしく味わうことができるし、栄養が高くなり、地球環境にも優しいからです。

三つめは、ひいおばあちゃんの野菜とみそは、地産地消だということです。「長くくらししている土地で作られた食べ物を食べることがもつとも身体に良い」という考えがあります。新鮮でとりたての野菜は、おいしくより栄養があります。あつい環境で育つ夏野菜は体温を下げたり、夏に不足しがちな栄養をとれるとききました。その土地にできる食べ物を食べることは、そこで生活する人々が健康的に生活できるような食になるのだと思います。ふだん食べている物へのありがたさや、心も体も元気になる食事の大切さを感じました。心も体も元気にすごせるよう食のことをよく考え感謝して生活していきたいと思いました。



優秀賞

「野菜に感謝」

横手南小学校

氏名

佐々木

祥真

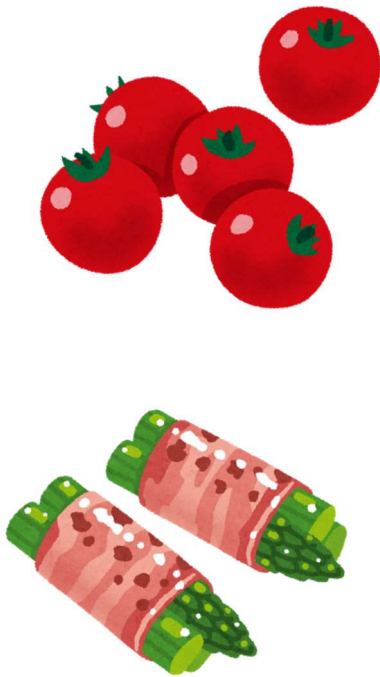
ぼくの神宮寺のおばあちゃんは畑で野菜を作っています。夏が近づいてくると、アスパラやトマト、キュウリなどをお母さんがたくさんもらってきます。新鮮な野菜はみずみずしくておいしいです。だからぼくもしゅうかくを手伝いたいと思いました。

しゅうかくした野菜の一つ目はアスパラです。アスパラの根は畑に30年以上前からあって、肥料をあたえて、時期がくるとどんどんはえてくるそうです。アスパラのしゅうかくの目安は二十センチぐらいと聞いてぼくもやってみました。根本のほうをつかんで、「ポキッ」と折りました。すると気持ちのよい音がしました。みずみずしい液がたれてきて、楽しくなつてどんどんしゅうかくしました。ぼくの好きなアスパラの食べ方は、肉をまいて焼いて食べることです。その日の夜に食べてみました。みずみずしくておいしかったです。

二つ目はオクラです。オクラの実は、上にむかっ

てえます。しゅうかくするときは、とげに気をつけてはさみで切ります。切るときの目安は六センチですが、たまにびっくりするほど長いものもあります。成長がとも早く、一日とりわすれるとこうなってしまうそうです。神宮寺のおばあちゃんは、夏のあいだは毎日のように畑に行っているそうです。毎日大変だけどトマトが赤くなったり次々と実がなるとワクワクしてくるそうです。ぼくはおばあちゃんのおかげで、おいしい野菜が食べられて幸せです。

ぼくがこのしゅうかくを通して学んだことは種をうえてからしゅうかくするまでの大変さと、しゅうかくできるというよるこびです。これからもだれかの苦労があつて食べられるということに感謝して生活していきたいと思いました。



優秀賞

「誇れる秋田のお米」

横手南小学校

氏名

渡辺 わたなべ 希絆 ののは

皆さんは学校の給食が好きですか？私は大好きです。ねる前に、次の日の献立を見て、「やった！明日は私の好きなものがでる！」と学校の給食を楽しみにしています。私が特に好きなものはご飯です。前からご飯が好きでしたが5年生の夏休みの自由研究で秋田の米について調べたのをきっかけに、前よりもご飯を大切に食べるようになりました。

J A秋田ふるさとで管理している米の倉庫に見学に行ったり、代表の方から秋田のお米についてくわしく教えてもらいました。私達が給食で食べているお米は全て秋田県で育てられた米と知っていますか？私はその話を聞いた時に何故か誇らしい気持ちになりました。自分達が住んでいる所で作られている米を自分達で食べているという事がうれしかったからです。

しかし、近い将来それがあたり前の事ではなくなるという事も知りました。毎日の食事でお米を食べる家

庭が少なくなっている事、給食の時でもご飯が残っているのをよく見かけます。他にも農家の高齢化や後継ぎの減少で田んぼが減り、米を作る人や場所が少なくなっているというのです。その危機をなんとか防ごうと自治体や民間企業もお米を食べてもらおうと工夫しています。秋田県の新しいブランド米の開発や米を使った食べ物や生活用品の販売など、米離れを食い止める活動を行っています。田んぼを見せてもらった時に虫やたくさんの自然があるから米は元気に育っていること。その広い田んぼ農家さんが管理してくれていることで私達が栄養いっぱいのご飯を食べれるということがよく分かりました。

私達にできることはお米をよく知ること、残さず大切に食べることがお米作りの素晴らしさがわかるのだと思います。私は自分が調べた事を友達や周りの人にこれからも紹介していき、沢山の人に米の素晴らしさを知ってもらい、食べてもらえるとうれしいです。



優秀賞

「じいちゃんと米作り」

朝倉小学校 熊谷篤人
くまがい あつと

ぼくはご飯が大好きで、給食や家のご飯のときはいっつも残さず全部食べます。たまにおかわりもします。食べながら時々じいちゃんのことを思い出します。

ぼくのじいちゃんは田んぼで米を作っています。おじいちゃんが世話する田んぼはとても広くて見渡す限り緑だったり黄色色だったりして気持ちのいい風がふくのです。

収穫の秋にはぼくもよく田んぼについていきます。じいちゃんが機械で稲刈りをしている間、僕は鎌でやりのこしの端っここの稲を刈って手伝います。機械がウターンするときに角のところが残るからです。大事なお米を残さないようにとがんばります。

お昼になるとあぜ道に座っておにぎりを食べます。じいちゃんはコンバインを止めてそのまま上で食べます。この時食べるおにぎりは一番おいしいです。ひいばあちゃんの家で育てた大根で作った漬物と一緒に食べ

ると最高です。おいしくていくらでも食べられます。

田んぼで仕事するじいちゃんは、とても働いていて忙しそうで大変だなと思います。でも、じいちゃんのような農家の人たちが一生けん命お米を作ってくれてくれるのおかげでぼくたちがおいしいご飯を食べることができるとののだなと思います。いつも一生けん命お米を作るじいちゃんをぼくは尊敬しています。

もしも将来ぼくが働くときには、ぼくもじいちゃんのようなお米を育てる農家になりたいと思っています。そのためにもたくさん勉強していろいろなことを覚えていきたいです。機械やトラックのこと、お米の育て方、販売について、など勉強することとはたくさんあります。もっとおいしいお米の炊き方やお米を使った料理にも挑戦してみたいです。少しずつできることからやってみて、いつか立派な米農家になれたらうれしいなと思います。これからも田んぼの手伝いを続けていきたいです。



優秀賞

「大切にしよう 一粒一粒」

栄小学校 藤原 壱樹
ふじわら いつき

お米を食べるときは、一粒一粒に感謝して食べてほしいと思います。なぜなら、ぼくは、お米を育てるのがどれだけ大変なのかを知ったからです。

最初は、地いきの人がぼくの家の近くの田んぼで米づくりをがんばっている様子を見て、たくさん時間をかけて作業していて、大変そうだなと気楽に思っていました。

そのあと、五・六年生で稲を刈る体験があり、ぼくたちもやってみました。すると、刈る時には力を入れないといけなかったり、しゃがみながら作業したりと、色々あって体が痛くなりました。みんなと協力してやったので、時間はそんなにかかりませんでした。思った以上に大変でした。農業を何年もやっている人は、すごいなと思いました。

総合の時間に、ぼくたちは、今年本格デビューしたお米の新品种「サキホコレ」について学習しました。学習

をして一番おどろいたのは、「サキホコレ」がたんじょうするまで、九年かかったということです。たんじょうさせるまでもたくさん時間がかかっているのは、初めて知りました。「サキホコレ」デビューの記念に「サキホコレ音頭大会」というのがありました。ぼくたちは、ジュニアの部で優勝し、五十キログラムの「サキホコレ」をもらいました。この取組について、ぼくだけではなく、お米を生産している方々への応えんにもなつて、すばらしい取組だと思いました。

お米は、農家さんがたくさんの手間をかけてつくっています。ですから、お米を食べるときは一粒一粒に感謝して食べましょう。また、最近、「食品ロス」という問題が増えてきています。おわんの中の最後の一粒までしっかり食べましょう。



第17回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品



【最優秀賞】増田小学校 おくやま ここ 奥山 心虹 「～サキホコレ～田植え体験」



【優秀賞】横手南小学校 たかはし きい 高橋 希依

「一年かけて」



【優秀賞】雄物川小学校 しもむら こうたろう 下村 洸太郎

「農家さんの願い」



【優秀賞】雄物川小学校 ふかさわ まい 深澤 茉衣

「お父さんと私」



【優秀賞】山内小学校 ささき もとき 佐々木 心暉

「おじいさんのイチゴは最高」



【優秀賞】山内小学校 たかはし このは 高橋 心羽

「おじいちゃんの野菜への思い」